



香川県防災士会 会報



第 16 号 2014.1

新年あけましておめでとうございます。

去年は香川県防災士会も着実に成長した年でした。

全体での活動も増えていますが、支部での活動が活発に行われるようになりました。

部会も、学生部会が設立し若い人の活躍に期待がかかります。次年度にむけて女性会員の部会設立の準備が始まりました。女性パワーにご期待ください。

今年は「甲午（きのえうま）」

うまは人との付き合いが古い動物です。

前回の甲午は 1954 年。日本の高度経済成長が始まった年だそうです。

今年の日本はどのように成長するのか楽しみです。

本年も、よろしくお願ひいたします。

♪今回は、年頭あいさつ・報告(5件)です♪

<2014年 年頭あいさつ> 【香川県防災士会会長：久保 雅和】

新年あけましておめでとうございます。

香川県防災士会は平成19年8月に13名で発足して以来、平成25年末で152名もの会員となりました。

防災士会も発足当時は啓蒙・啓発活動が主体となっていましたが、各支部の設立や各部会の発足により地域で効率的に減災に向けた防災活動に移行してきています。

香川県教育委員会の依頼を受けた学校防災アドバイザー派遣事業（昨年度79校、今年度49校）、土器川大規模水害検討会テーブルリーダー、災害に強い街づくり研究会での防災マップ作成、各地でのHUG、ため池決壊DIG、外国人避難所訓練、各地域での防災訓練等を実施しました。

また、香川大学防災士養成講座では、一般募集は定員120名が初日で満席になり、大学生対象では受講生が160名にも達するようになってきました。

このような状況の中、防災士養成講座補助金も県、市町も開始され、高松市、坂出市、東かがわ市、善通寺市、まんのう町は全額補助制度となりました。

会員のスキルアップ研修としては气象台との連携も深まり気象情報の利活用の研修、その他、担架作成・搬送訓練、三角巾訓練等の学習や実地訓練のスキルアップ研修を実施しました。

行政機関との連携についても高松地方气象台、国土交通省四国地方整備局、香川県危機管理課、広報室、香川県教育委員会、高松市危機管理課、坂出市危機管理課、丸亀市危機管理課、通寺市危機管理室、東かがわ市となり情報の共有化を図っています。

報道機関との連携についても広がり各会員に要請が来るようになりました。

一方では、会員スキル不足もあり、防災士として一層、知識、技術の向上を目指したスキルアップを図る研修を計画、実施を検討しています。

防災士会はボランティアとして県民の減災を目的に活動していますが会員にも現職の方や働いている方も多いのが現状で、焦らずに出席できる参加をお願いします。

今年もすでに多くの事業が予定されていますが各支部、県のもとに地域に根差した活動を「気楽に、気長く、根気よく」を合言葉に各支部内での連絡や県防災士会との連携を密にして、できるだけ多く行事に参加をし、経験を重ね各自のスキルアップをもお願いします。

本年も良い年でありますよう会員皆様の地域に根差した活動で減災に向けてよろしくをお願いします。

< 仏生山地区 D I G > 【斎藤 巖】

仏生山は、高松藩主松平家の菩提寺法然寺の門前町として発展してきた歴史のある町です。築 100 年以上の歴史的建造物も残されて、なまこ壁の土蔵があったり、板壁のある町家あったりして往時の面影を残しています。松平家菩提寺法然寺のすぐ南には 135 万 t の水を湛える平池が、北側に広がる平野部の農地を潤しています。平池は、東日本大震災で堤防が決壊して 7 人の犠牲者を出した、福島県の藤沼湖(貯水量約 150 万 t)に大きさのため池です。



ここ香川県は雨が少なく、農業用水を確保するため、多くのため池が県下に点在していて、その総数が 14,619 もあります。平池のすぐ東には前池(貯水量 12.7 千 t)があります。標題にある新池(貯水量 12.7 千 t)は、平池の南 4 km の香川町に、船岡池(35.2 万 t)は平池西 400m にあります。

仏生山は、海岸から 10 km 南の陸地で南海トラフ巨大地震でも津波に心配はなく、仏生山住民の一番の不安が地震や豪雨による平池の堤防決壊した。仏生山住民は、平池の堤防決壊だけを心配していました。しかし、心配は平池の堤防決壊だけではないことがわかったのです。

7 月初旬に高松市土地改良課から、ため池ハザードマップ説明会が仏生山であり、地震や豪雨により平池のほか、南の新池、西の船岡池が堤防が決壊した場合、これら 3 つのため池から流出する【大量の水】で仏生山町内の広い範囲に大きな災害が起こることがわかりました。早急に災害に備える必要があり、まずは事前に浸水地域や危険箇所を知り、同時に避難経路・避難場所・避難準備・地域住民はどんな対策や連携が必要かを考える、災害図上訓練から始めることにしました。

高松市土地改良課から示された図面は、①浸水地域(範囲)②決壊で流れ出す流速③浸水の深さが、ため池ごとにあり、さらに①～③は地震による決壊と、豪雨による決壊の 2 種類に分かれています。1 つのため池に 6 枚の図面、仏生山は 3 つのため池浸水被害地区になるので図面は、合計 18 枚になります。従って、多岐に亘る要件を考慮した災害図上訓練となるので、香川大学危機管理研究センターの長谷川先生に相談し、専門知識・経験をお持ちの客員研究員林宏年氏(防災士)に指導をお願いし、香川県防災士会にもご協力をいただき災害図上訓練を実施いたしました。

仏生山住民の関心は高く、100 余名が参加。

災害図上訓練は、2013 年 8 月 10 日の土曜日に実施。19 時からの開始でしたが参加者は、自治会長・自主防災会長・地元の龍雲中学校教頭・仏生山小学校校長・幼稚園や保育園の責任者・不動産業者、一般住民など総勢 103 名。

会場の仏生山コミュニティセンター大会議室はあふれんばかりの人数です。林先生の指導のもとに、参加者は 10 班に分かれ、各班について指導者の方々のアドバイスを受けながら、基本仏生山町地図上に透明のビニールシートを乗せ、そのビニールシートに自宅の位置をプロット、主要道路、避難可能な施設等を書き込む。



次に、基本仏生山町地図をため池決壊による浸水域地図に差し替え、被害がどの程度及ぶのか、どのように避難するのが話し合われました。

- ・近くに高台があるので、そこへ逃げる
 - ・浸水地域外に、広い避難波があることが分かった
 - ・西の方向に逃げるのが容易だ
 - ・近くのスーパーへ逃げる
 - ・鉄骨2Fの建物に逃げる
- など各人は、避難方法を確認していました。



一方

- ・決壊から3分で我が家に水が来る。逃げる時間が無い
 - ・近くに高い建物が無い
 - ・歩行での避難は少し難しい
 - ・我が家は木造家屋倒壊地域に位置している
- など今後の課題を認識した人も多くおりました。

『私の地域は安全なので、災害が起きた時は他の地域を支援します』と心強い発言もありました。

次のステップは防災マップづくり

参加者は、ため池氾濫時、自宅の地域の危険性・安全性や避難場所・避難方法など理解しました。しかしこれは厭くまでも地図上のことです。

また、自宅が浸水地域からはずれている参加者は「うちの地域は水が来ない」と安心した参加者もいます。水が来なくとも、地震が起きた時の備えはしておかなくてはなりません。

来年度は、仏生山のまちをつぶさに歩き、ため池氾濫による浸水地域・浸水深さ、歩行避難困難区域、木造家屋倒壊危険区域等の確認、また、地震による危険箇所を確認して、防災マップづくり行ない、いざという時に、「天災が人災にならない仏生山コミュニティ」を目指して活動いたします。

<高松地方气象台視察>

【久保 雅和】



香川県防災士会はこれまで HUG・三角巾・担架搬送などのスキルアップ研修を実施してきたが、今回に何をしようかと思案中、日ごろから气象台と連携していたことから气象台に相談したところ是非ということで「香川県防災士会との業務打ち合わせ会」を実施することになった。

急遽、2013年10月31日に開催が決まり平日にもかかわらず防災士44名もの防災士が参加した。气象台では2班に分かれて予報

現場、観測機器等施設の見学。観測現場では露場で雨量計や感雨計、積雪深計、乾湿度計などの観測機器、四国では2か所設置されているウインドプロファイラー(300H Paまで気温、風向、風速等観測)の説明を受けた。

予報現場では毎日の天気予報の発表される状況や何台もの大きなディスプレイの前で、ひまわり画像、アメダス等四国地方の監視状況や、香川県の注意報、警報基準等の説明を受けた。

見学の後、会議室で「防災情報の利活用について」「地震解説と緊急震速報」、今年度新たに開始された「特別警報」など等防災気象情報の利活用について解説と利用の仕方の説明を受けた。

また、会員の多くは気象台が初めてで見学でも、説明会でも数々の質問があり適切な解説をいただいた。

その後、場所を変えて恒例の懇親会・・・これには防災士、気象台の職員併せて39名が参加・・・気象台の職員を相手に盛んに質問をしていたようです。気象に対する疑問が少しでも解消され、今後の気象情報に理解をして、地域の減災に役立てていただければと思います。今後の防災士の活動の一助になって幸いです。気象台からは今後も継続して「業務の打ち合わせ会」を実施したいとの意見をいただきました。



<さぬき市HUG研修> 【長谷 秀彦】



2013年11月2日(土)午後10時よりさぬき市寒川公民館でHUGのファシリテーションを行った。

これは、さぬき市社会福祉協議会が主催する「防災ボランティアフォローアップ研修」の一環として行われ、当会東讃・高松北・高松南・高松西各支部の会員13名が対応した。

林東讃支部長のオリエンテーション・解説・進行の下、さぬき市内各地から集まった防災ボランティア49名が6班に分かれテーブルシミュレーションを行った。ほぼ旧町単位で班分けを行ったため当初から活発なディスカッションが展開されていた。

展開されていた。

全日程2時間の研修であったため、当方の担当したブースでは、発災時の状況の想像力を向上させることに終始し、与えられた条件付与に対応できない場面もあり、設定時間を考慮したファシリテーションの難しさも実感した。

主催者からは「今まで一番盛り上がった研修となりました」との感想が出され、参加者の一人から、今後地域で行う訓練に本日担当した防災士が参画してほしいとの要望も頂戴し、地域での学習意欲の高さに驚きも感じたところである。参加者も感じているとおり、反復継続した意識付けが実災害時に役立つ知識となる。



<シェイクアウト> 【坂入 剛裕】

去る 2013 年 11 月 5 日午後 2 時。全国一斉地震防災行動訓練「Shake Out」が行われた。香川県防災士会においても、多数の会員の皆様の参加にて各地域で各々の形で順次、訓練行動を展開して頂いたものと思います。

実は 今回の坂出小学校での訓練の様子は県の広報用に収録されるというもので、香川県広聴広報課、並びに、危機管理総局危機管理課の依頼で山陽放送 RSK テレビが「みんなで備えて あんしん香川」という広報番組の VTR 収録の目的で、来られた様です。

久保会長も耐震のための準備や備えなど自宅での取材の後、ここでの訓練のコメント収録となったみたいです。

13:30 集合の後、撮影スタッフと共に教頭先生と打ち合わせ。教室を VTR 収録されている間に他の教室や、建物の観察。一応、防災を考慮して建てられた校舎とは言うものの、本棚、収納、その他、壁面固定がされていない！グラグラである。教頭によれば、壁面へのビス打ちは禁止されているとの事。そのため多くの掲示板も自立型のフレームに板を設置し掲示板としている。これが廊下の至る所に有る。

そんな話をするうちにシェイクアウトの時間。

まず、地震想定 of 校内放送。有事の際は放送する余裕は無いと思われるが・・・

子供達は即座に机の下に！でも、先生は立って見ている！

揺れが収まったと言う事で防空頭巾を被り校庭に避難。この防災頭巾、残念ながら、机の横ではなく教室の後ろの固定されていない収納の中でした。ここでも何故か、先生は何も被らず！

また、この校舎は耐震設計の新しい校舎であるはずなのに、校庭に避難？

特に気になった廊下の内側はその殆どが明かりを取り入れるために全面ガラスとなっている。多分、割れて飛散すると床はガラスの破片だらけ。大変な事になります。

校庭で人員確認の後、津波避難訓練が始まる。全員、校舎 3 階に急いで駆け上がる。教室、廊下に全生徒が避難。お隣の養護施設「八幡園」の方々もここに避難するのだが、こちらは、車椅子を上げたり、背中に背負ったり、無反応の子供を引っ張ったりと、大変な作業であった。

こちらは全員ヘルメット着用！

一応、訓練の収録が終わり、CM 用の上級生のインタビューも撮り終え、最後に久保会長の出番。しっかりと決められた内容に基づいてコメントを粛々と話終え、本日の活動終了！となりました。

今回、教頭先生との話の中で、学校側は市に対して防災対策で要望はあるものの、予算の問題などで、どうしても出来ない事が有り過ぎてままたまならないと、溢しておりました。



<国分寺北部校区防災訓練> 【奥村 里々子】

2013年11月17日（日）9:00～12:45 国分寺北部小学校で防災訓練が行われました。



この訓練は地域住民が、1班60名×6班に分かれ、消火訓練、AEDの使い方、避難所での間仕切り訓練などを順に行う防災サーキットです。

昨年同様、防災士会では毛布と竹竿を利用した簡易担架の作成および搬送訓練を担当し、13名で対応しました。各班の前で、防災士がデモを見せながら説明を行い、その後10人ずつに分かれてもらい、各班に防災士2名が付き実際に体験してもらいました。



当初は少し戸惑った様子で、体験を呼びかけても見学する住民の方が多かったのですが、各防災士の積極的な呼びかけと、興味津々で「担架に乗りたい!」と集まる子供たちのおかげで徐々に訓練にも熱気を帯びてきました。



途中、様々な質問を受けました。①竹が無いときは?②毛布がないときは?③少人数で運ぶ方法は?などなど。そこで当初の担架作成、搬送以外にも、ヒューマンチェーンで2人で搬送する方法、毛布のみで担架を作り搬送する応用担架など、スキルアップ研修で学んだ内容を紹介することができました。子供には、次々に上着を脱いで作る担架が人気でした!



特に、皆さんの興味を引いたのは、毛布に寝かせた状態で傷病者を包んで引っ張って運ぶ搬送法です。これは鹿谷防災士のからのお話で、実際に火災が起きた状況で家人が1人で傷病者を玄関先まで引っ張って運びだし、近所の方に救助を求め命が助かったという、事例を紹介したこともあり、かなりインパクトがあったようです。年配の女性や、子供たちでも運べるとあって体験される方が多数みられました。このように各防災士の臨機応変な指導で、短い時間ではありましたが、十分に訓練してもらえたと思っております。

この地区は高齢者が多く、「担架搬送なんて力仕事はできない、無駄だ」などと言われる方もおられました。顔の見える近所付き合いが、万一の災害時には命を救うことに繋がることをお話しし、再認識してもらえました。

これからも、地域の皆さんに助け合いの精神に共感してもらえらるような活動を心掛けてゆきたいです。

今後の行事予定

- 1/16 香川地域継続検討協議会 DCP 勉強会<香川大学教育学部> (要事前申込)
- 1/21 中讃地区養護教員 HUG 研修<長炭小学校> 【中讃地区対応】
- 1/24 高松海上保安部業務視察 (女性会員限定)
14:30～ 海上視察・業務視察 視察後、懇親会開催予定
- 1/25 防災とボランティアのつどい
10:30～15:00 サンポート高松 デックスガレリア
お手伝い頂ける方は8:30 集合をお願いします。
今年は、福島餃子が登場します。当日参加や、ふらっと立ち寄りも大歓迎です。
※2Lペットボトルがありましたら、よく洗ってラベルとキャップを外し持ってきて下さい※
- 1/26 戸羽市長 (陸前高田市) と防災を考える<坂出グランドホテル1階>
※臨床心理士の浅海先生 (防災士) と北山防災士がパネリストとして登壇します※